# 会　議　議　事　録（要旨）

| | |
|---|---|
| 会議等の名称 | 令和元年度第２回磐田市子ども・子育て会議 |
| 担当部課名 | こども部こども未来課 |
| 開催日時 | 令和元年 10 月 28 日（月）　14：00～15：50 |
| 開催場所 | ｉプラザ２階　ふれあい交流室１ |
| 出席者 | 出席委員（敬称略 12 人）<br>漁田　俊子、原田　征己、山下　惠祐、鈴木　梓、清水　聖也、<br>伊藤　辰義、村松　史紀、松下　尚子、勝又　みさ子、菊島　昭崇、<br>望月　紗登美、田丸　恭子<br><br>事務局（11 人）<br>・こども部長　山内秋人<br>・教育部　　児童青少年政策室　室長　加藤計吾、主任　松島優<br>・こども部　　幼稚園保育園課　課長　鈴木都実世、課長補佐　寺田尚人<br>総務Ｇ　Ｇ長　三谷昌史、副主任　横井　智子<br>こども未来課　課長　髙比良紀惠子、課長補佐　伊藤修一<br>こども支援Ｇ　Ｇ長　岡田佐栄子、主任　鳥居良之 |
| 議題 | １　第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画　素案について<br>２　子育て支援センター配置見直しについて<br>３　病児保育事業実施の検討について |
| 配付資料等 | 資料１　第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画　素案<br>資料２　磐田市子ども・子育て支援事業計画　第４章行動計画　新旧対照表<br>資料３　子育て支援センター配置見直しについて<br>資料４　子育て支援センター配置地図<br>資料５　病児保育事業実施の検討について |

| | |
|---|---|
| １　開会 | |
| ２　会長挨拶 | |
| 自己紹介 | ・前回欠席された委員の自己紹介 |
| 事務局より | ・会議が成立する旨、傍聴希望があった旨の報告 |
| ３　議題等 | （１）第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画　素案について<br>・第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画　素案について事務局説明 |
| 委員 | ・民生委員・児童委員の立場から申し上げます。<br>第３章の基本構想について、「みんなの手で、磐田の将来を開く子育てのまちを創ります」という所、また「人と人がつながる子育てのまち」、「笑顔かがやく子育てのまち」、「未来に向かう子育てのまち」というのは、非常に理想だということが書かれています。<br>私は民生委員・児童委員になって今年で 12 年目になり、この 11 月に退任します。ここ３年くらいは、児童委員について、児童に対してのことをしっかりやろうという方針で取り組んでいました。というのは、以前にも申し上げましたが、厚生労働省の発表で平成 29 年には民生委員が全国に 23 万人いるのですが、児童委員と民生委員を分けて、更に 23 万人増やしていこうというようなことが、正式に検討されたという経緯があったと聞いています。<br>これが形にならなかったのは、子どもが一人で貧困や虐待を経験したということがなく、そこには親や家族や地域が関係しているということで、結局地域や家族を知っていないとそのことに携わっていくことができないということになり、それならば民生委員が一番適しているということになりました。<br>最近では、子どもに関する生々しい事件や事案が報道されています。そのことも児童委員として関わっていけたら良かったのにと感じています。<br>つい先日ですが、旧竜洋町時代から友好都市関係にある喬木村という長野県の村の民児協と懇談会を開催しました。１時間程度の会でしたが、お互いにそのようなことがあるのかという所が色々とありました。一番驚いた |

| | |
|---|---|
| | 情報は、喬木村という小さな組織だからできることなのかもしれませんが、子どもの情報、学校の情報が事務局を通じて全て出てくるとのことです。<br>地域に発達障害の子がいること、不登校の子がいることをみんな知っているとのことです。果たして、今、磐田市はどうなのかなと思い返したところ、私の担当する一つの地区では、99 軒ある中で発達障害の子が３人いるのですが、その子のために民生委員として何かしたかというと、全く何もしていません。私は２つの地区を持っていますが、もう一つの地区については情報がないためまったくわかりません。<br>そうしたときに、最初に書かれているような見出しにある地域になるのかなと思ったりします。地域には様々な人がいると思いますが、民生委員・児童委員という、れっきとした職務を持っている委員なので、もう少し信頼して情報を出していただき、手伝わせていただけたらいいのではと思います。 |
| 委員 | ・改めて第一章から読み直しました。第一章で国の方からの趣旨や背景があり、第２章で人口に関わることが書かれている、第３章で基本構想を経て、第４章・第５章に繋がっていく。<br>疑問に思ったことが、人口が減少していくだろうと思っているのかなという所です。第一章で少子高齢化の事も書いていますので、メインは子育ての質を上げましょうということですが、若干少子高齢化についても触れたいのかなということが裏としてあるのかなと思いました。<br>実際、行動指針でメインは子育ての事なので、少子高齢化を防ぐための土台になるとは思いますが、直接かかわってくるのが、７の「子育てに向き合うことができる就労環境及び家庭生活の実現」にあたるのかなと思い、そこを考えると、私の子どもが将来大きくなった時に磐田市がさびれていたら嫌だなと思うので、こういう部分も目的としてもう少し明記した方が良いのではと思います。 |
| 事務局 | ・ご意見ありがとうございます。<br>全体としては子育てをメインにした計画になってきますが、おっしゃる通り子育て支援や少子化の背景、就労環境や企業との関係は切っても切れない関係にあるということは私どもも十分承知しています。<br>こういった計画を立てるとき、行政としてできること、市民としてできる |

| | |
|---|---|
| | ことは、思いを書くことができますが、企業の皆さんにどのようにして関わっていただくかということについて、どうしても課題になります。家庭の中でどれだけ父親に子育てに関わってもらえるのか、その為に企業としてどのようなことを担ってもらえるのかについては、正直、具体的な施策が見いだせないでいるということが現状です。<br>私どもも、がんばる企業応援団という形で市内の企業を職員が手分けをして回らせていただいて、子育てについての情報提供やお話をさせていただいているのですが、やはり企業によっては、まだ子育ては考えられない、それは大企業の話だよね、などの声もいただきます。<br>結局、企業の方から何かご提案がいただければありがたいと思いますし、そういった場面で関わっていけたらと思います。 |
| 委員 | ・特に中小企業については、子育て支援を具体的に進めることが難しいところが多々ありますが、ただ、私どもとしては、できる限りの支援をしていきたいと考えています。<br>たとえば、私はガソリンスタンドを経営しているのですが、弊社のガソリンスタンドは２４時間営業で、早番・遅番・中番という形で勤務が分かれており、その中には女性スタッフもおります。そうすると、やはり、不規則な生活になってしまうので、子育てをしている女性スタッフには、定時で帰ることができる働き方を推奨しています。あるいは、パート・アルバイトについても、２時間からの短時間で採用するなど、ちょっとしたことかもしれませんがやってきました。<br>今、人手不足ということが言われていますが、それは雇用の問題でもあると考えています。なかなか厳しい会社が多いと思いますが、市や会社が少しでもそういう部分に目を向けていっていただけたらなと思います。 |
| 委員 | ・私は連合から来ていますが、教職員組合出身なので、民間の事については分からないことが多いです。<br>私については、企業任せはどうなのかという考えです。何らかの形で市と企業が協定を結ぶ等をした方が良いのではと思います。磐田市内には大手企業がありますので、そういったところから動いていただきたいです。中小では厳しい面が多くあると思うので、大手の企業から進めていただき、市で協定を結ぶなどしていただけたらと思います。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | ・静岡県の教育委員会に関わっていて、こういった話が毎回出てきます。県が何をやっているかというと、子育てのために何月何日は早く帰ること、月に一度必ず早く帰る日を設けている等、また、いろいろな講演会、例えば父親の育児参加についての講演を聞いたところに得点を与えて表彰するなど、少しずつ草の根的に実施はしています。しかし、なかなか進みにくいという印象があります。 |
| 委員 | ・磐田市で何か困ったことがあっても、市のホームページで調べることもあまりないので、資料の赤字の所を見て、ここが変わるのだなと思いました。<br>正直に言うと、これについて何かあるかと聞かれても思いつきません。<br>私も働きながら子育てできたらいいと思っていますので、こども園の充実などで、いい方向に向かったらいいなと思っています。 |
| 委員 | ・中学生のスタートアップ応援事業、実費徴収に係る補足給付を行う事業、学習チャレンジ事業とは何ですか。 |
| 事務局 | ・素案の 37 ページをご覧ください。<br>中学生スタートアップ事業については、中学校に入学を予定する児童とその保護者に、学校指定の制服および体育衣料の購入に使える商品券を支給しますということで、３万円分の商品券を対象の方に渡すということになります。これは全員になります<br>就学援助費の支給については、経済的理由によって就学援助を希望する場合、保護者に学用品や学費の一部を援助しますということになっています。 |
| 事務局 | ・実費徴収に係る補足給付について説明いたします。資料の 37 ページの⑥をご覧ください。こちらは、生活保護等、低所得世帯を対象とした事業となっており、教育・保育施設の日用品・文房具など必要な物品の購入に要する費用や、行事への参加に要する費用などの実費負担について補助を行います。<br>・学習チャレンジ事業についてですが、生活保護世帯等の子どもを対象に学習の場の提供や教育相談を行い、高校への進学を推進することにより、 |

| | |
|---|---|
| | 将来の自立促進に向けた支援を行うという事業になります。 |
| 委員 | ・計画を策定するうえで、磐田市の課題ということで挙げていただいていますが、やや抽象的で、今、磐田市の中で何が問題になっているのか、お子さんや親にどういう問題があるのか、そういう所が見えてこないので、この課題はどこから来ているのかが分かりません。<br>今本当に困っているのは子どもなのか、親なのかということを、磐田市としてどれくらい把握して、こういう課題があり、こういう計画にしたのかということを教えていただきです。 |
| 事務局 | ・課題と思った瞬間に、それぞれの子どもの年代や親についても、課題山積だという印象を持っています。<br>例えば、私どもは今年からこども未来課という名前になりましたが、対象となる年代が、赤ちゃんが生まれる前の妊娠期からになっており、本年度からはこども・若者相談センターという形で組織を作りましたが、対象としては、若者とは言うものの、30 代や 40 代くらいまでをイメージとして持っていますので、幅広い年代にわたって子育てというものをとらえています。<br>子どもをみると、発達の課題や、家庭の状況によっては貧困と言っておりますが、環境的な所も含めて、様々な問題が山積していると考えています。<br>保育園については、以前から待機児童ということが言われており、そちらも取り組んでいますが、企業との関係、就労状況の伸びによって就園率も年々低年齢化を含めて上がっており、どこまでいっても入園の希望が減っていかない状況の中で、現場においては、先生方の質や保育の質という所に繋がります。<br>磐田市独自で１つの課題が明確にあるわけではなく、子育ての中でもいろいろな分野で課題がると認識しています。<br>計画についても、柱が何本もあり、母子保健の事、小中学校の事など、いろいろな分野で様々な事業を行っており、今後もやっていく必要があるなということが、この計画の根本にある所です。 |
| 委員 | ・通常だと問題があって何を求められているのかから入るのかなというのが感想でした。聞いていると、この計画は、子育てに困っている家庭を助 |

| | |
|---|---|
| | けたいのか、「子育てなら磐田」ということにしたいのか、その辺りがよく定まっていないのではと感じました。 |
| 委員 | ・今の視点はとても重要だと思います。<br>足りないところ、こういうことが課題であるということをたくさん出して、それを改善しようとする動きということで、課題とおっしゃったと思いますが、もう少し現状についての事がここに表れていることが第二期では大事なのかなと思います。<br>以前アンケートを取りましたが、その中で課題がいくつかあったかと思いますが、そういうことは表れているのでしょうか。 |
| 事務局 | ・具体的な要望など細かい話があるということが課題であると認識しています。子育て支援という所は、どこの自治体でも課題として取り組んでいると思います。<br>・子ども・子育て支援事業計画については、国の方の指針に則り作っています。そのため、全体的な、包括的な事項について扱っています。この計画の性格については、すべての事業について、磐田市が劣っているからそれをやりましょうというだけではなく、今進めているところも網羅しているものになります。<br>課題としては、アンケート調査をして市の事業についての評価を取りましたので、これについては量的な数値として、不足しているのか足りているのか等、子育て世代の要望や必要とする保育・子育て支援の数量が磐田市として足りているか足りていないかについて具体的に上がってくると考えています。<br>磐田市として抱えている問題は、保育需要に応えられるかどうか、子育てしやすい環境づくりに向けて、企業の方で育休が取りやすい環境なのかどうかが大きな課題だと考えています。また、貧困について、磐田市でも全国と同じくらいの 13%程度貧困の方がいますが、その方々に対する支援をどうしていくかが大きな課題であると捉えています。<br>細かいことを言うと、分野によって様々な問題がありますが、計画の性格はこのような形なので、この計画の中でも皆さんにこの部分とこの部分を重点的に取り組んでいくということを審議していただくことになると思います。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | ・現場の中で、保護者の様々な問題が目の前で起こっています。<br>例えば、子どもに熱が出た時に、家族間でけんかになる、誰が見るのか、どうするのか、仕事は休めないという話が起こっています。<br>また、子育てに理解がある企業とそうでない企業があって、発熱の時にも預けていって、熱があったら会社に電話をしてください、そうしたら迎えに行きますということがあり、それは会社に連絡すれば休めるんだということなのですが､そこまでしないと休める環境にないんだなということも、保護者を心細くさせている原因かなと常々感じています。<br>貧困については、保護者がちゃんと働かなければだめだろう、という家庭も目の前にあり、そこにどう援助していくのか、お金という問題だけでなく、目の前の子どもを育てるために働かなければいけない、では働くために相談に乗ってくれる場所がないといけないのではと思います。<br>保護者が発達をかかえている人もいますが、そういった方は長続きせず、すぐに仕事を解雇されてしまいます。そういう所でも、保護者の困っているところに寄り添える場所もあってしかるべきと思っています。<br>保育の質に関係することですが、最近テレビでは鬼アプリを平気でやっているのは怒りを覚えます。子どもを脅迫して自分の子育てを人に託すな、鬼に託すなということももっと声に出していかなければと思っています。<br>思っているだけではなく、例えば転んだ時にここにクッションがあったら安心な子育てができるなどありますが、そういうことにアンテナを立てて皆さんの中で思っていかないと、子育ての質が上がっていかないのではと思います。 |
| 委員 | ・児童発達の中で、保育所等訪問支援という国がやっている支援があります。磐田市は児童発達の支援が進んでいると思います。こども園に行くと受けがいいのですが、私達はこども園の教室の授業を見るわけではありません。園によってはなかなか入れてくれないところもあり、保育士の質を見るわけではなく、どうしてその子が特別な配慮を必要とするかという現場を見た上で支援をしたいと思っています。この辺りがまだ精通しておらず、もったいないと思う所と、入れてもらえるところはどんどん入れるので良くなっていき、先生たちも助けられています。幼稚園や保育園と仲良くなる中で、連携して支援ができています。支援体制づくりではなく、充実の方に重点を置いていってほしいです。 |

| | |
|---|---|
| | また、発達障害の子どもたちの、２歳から４歳の子どもたちに対応する母親に対するペアプロの学習もしてきて、外部団体の発達障害に限定しますが、これをまず自分の所からやっています。本当はもっと広く、２歳の段階、大きくなる前の段階で何とか手を打つ形で早く知れ渡ってほしいなと思いますが、なかなかそこまでできないので、まずは自分の所からやっているというのが現状です。<br>やはり早期療育の必要性のノウハウがある人がいれば、変わるということを早く伝えていきたいです。<br>発達支援の方をご支援していると、発達障害をお持ちだろうというご両親がいます。そこにすごく子育てのしにくさがあります。これが良い、あれが良いがなかなか入らず、ペアプロにもなってきますが、同時に貧困世帯の支援もしていますが、結論から言うと、子どもを支援しているはずが、家族全体を支援しなければならない現状にあります。そのような中で、だれが核なのか。さらにそこに外国人も入ってきます。<br>外国人はまず言葉が通じません。用意してくれる通訳の方はお友達の方ですが、申し訳ないですが、通じません。専門的なことや、仕組み、学校の流れ等、日本の事を知っている人が通訳として入ってくれるのなら良いですが、そうではないお友達が来ると、親に聞きたいはずが、お友達が答える場合などがあります。<br>これだけ外国人が多いと、通訳の保証も子育て支援のどこかに入れていただければ、尋ねられた時だけでなく登録している方でもいいので、そうした情報が得られたらもっと楽になるんじゃないかと思っています。 |
| 委員 | ・外国人の問題について、磐田市にシステムはありますか。 |
| 事務局 | ・こども部の中では、通訳の方を配置しております。園にも、外国人が多い園については通訳を職員として配置して対応できる形にしています。<br>最近では様々な言語がありますので、今年から試行的に、ポケトークという機械を使用して、翻訳に代わるという試みをしています。そのような形を少しずつ広げており、外国人の方への対応をしている状況です。 |
| 委員 | ・ちなみに何語と何語の通訳者がいるのですか。 |

| | |
|---|---|
| 事務局 | ・英語とポルトガル語になります。 |
| 委員 | ・中国語やミャンマーの言葉はないのでしょうか。 |
| 事務局 | ・配置はしておりません。 |
| 委員 | ・そういうにはどのようにして対応されるのでしょうか。 |
| 事務局 | ・職場で言葉が通じる方に同伴していただき、その方を介してお話しする形になっています。<br>園の通知もありますので、そういった場合にはお知り合いの方を介して伝えるという対応をしているのが現状です。<br>また、ポケトークはかなりの言語が対応可能なので、こういったもので何とか対応している形です。 |
| 委員 | ・早期介入は保育園との絡みでも困ることだと思っています。早期介入だと、例えば０歳児や１歳児で現場の保育士が「ちょっと遅れているかな」と思うことをいかにして保護者に伝えるのかという所からだと思います。<br>０歳児や１歳児は個人差が大きいので、遅れていないかもしれず、それに対して現場では非常に言いにくい部分があります。そこの絡みで早期介入が難しいということがあります。 |
| 委員 | ・巡回相談というものもありますが、私の所で支援しているお子さんがいる園に支援に行くと、必ずご相談を受けます。先生たちとしては、長年の経験から何か違うと感じてはいますが、ほとんど内々の相談になります。 |
| 委員 | 私には小学１年生と年少の子どもがいます。無償化になって働くお母さんが非常に増えています。今、隙間時間を使って 10 時～12 時くらいまで、ベビーマッサージの講師として赤ちゃんを見ています。<br>個人的に愛着形成という所を勉強させていただいています。市の方針にも愛着形成とありますが、何をもって愛着形成をつくろうとしているのかと感じています。<br>先ほど、委員の方から病気になった子どもを預けるのにけんかになると、 |

| | |
|---|---|
| | その時点で子どもは病気になって辛いのに、目の前で両親がけんかをしているところを見ていたら、これは愛着になるのだろうかと、聞いていて悲しくなりました。<br>働くお母さん、お父さんも、なぜ目の前で子どもが辛い思いをしなければならないのか。<br>10月生まれのお子さんで、４月に預けないと仕事に復帰できないという方がいました。４ヶ月で預けないと、預け先がないから、仕方ないので預けますということだったので、選択できないんだなと思いました。<br>働くお母さんを増やすというのもとても大事だと思いますが、もう少しお母さんたちが選べる選択肢があればいいなと思います。<br>１歳の誕生日を迎えたその日に仕事に復帰しなければならない、１歳の誕生日をお祝いしてあげられないという、そんなに悲しいことはあるでしょうか。<br>保育園に預けないと働けない、周りのお母さんも働いているから私も、無償化が始まって預けることが当たり前になってしまったときに、本当にそれでいいのかということです。<br>愛着形成は巷でもよく言われていますが、磐田市では何をもって愛着形成を支援していきたいのかが素案からは全く見えませんでしたので、お伺いしたいです。 |
| 事務局 | ・早期療育にもつながると思いますが、愛着はある日突然できるわけではないので、妊娠期から愛着形成の準備は始まっており、発達という基準でみていくと、私どもとしては、１歳６か月時の健診の時に、発達の様子を見させていただいています。<br>ですが、その時点でどうかということではなく、新生児訪問等のいろんな場面でお母さんたちと会う時に、子どもさんとの向き合い方、声掛けの仕方、おむつ替えの時にどういう形でコミュニケーションをとるか等の積み重ねが愛着形成になっているということは、お母さん方に保健師を通じて伝えておりますし、今後も続けていくつもりです。<br>磐田市独自の取り組みとしては、BPプログラムに取り組んでいます。<br>同じくらいの月齢の赤ちゃんを持つお母さん方に集まっていただき、赤ちゃんとの向き合い方や、お母さん同士の交流を目的に、１クール４回のプログラムを各地域で開催しています。 |

| | |
|---|---|
| | 働くこととの兼ね合いもあると思いますが、働くことがいけないということでもなく、働いている中でも親子の時間の中で愛着形成はあると考えています。<br>必ずしも働くことか愛着形成かどちらかということではなく、働くお母さんもいる中で、ここを否定してしまうことの無いように対応していく必要があると考えています。 |
| 委員 | ・磐田市はすごく頑張っておられると思っています。是非続けていただきたいです。 |
| 委員 | ・先ほどの例ですが、保護者が責任を持って働いていく中で、なかなか休みがとれない状況にあるという一つの例になります。<br>仕事と子どもを園に預ける事との両立はできると考えています。<br>懇談会等で愛着について学ぶことがありますが、働いているからこそ、貴重な時間を子どもと共に過ごしたいということもありますので、働くということに対する保護者の姿勢も重要であると思います。 |
| 委員 | ・専業主婦だから愛着ができるかということでもないし、24 時間家で子どもと会っていたとしても、ずっとテレビを見せていたり、スマホを使わせていたりしたら意味がないと思います。<br>働くお母さんたちも、短時間でも密に子どもといっしょに過ごしていただければ両立はできると思います。<br>しかし、バランスが非常に難しいと思います。働いているお母さんも幅が広く、フルで働いているお母さんたちでも、時間に追われて何もできない、子どもと過ごせない。土日は家の事をしなければならないという中で、みんなワンオペだという話をたくさん聞くので、それでけんかになる等、残念だなと思ってしまいます。<br>愛着形成という言葉だけが先走っていて、すごくホワンとしています。どういうことが愛着なのかといったときに、まず０歳児でもわからないことがすごく多くて、小学校１年生の子どもも、しっかり愛着形成できているかどうかわからないですが、そういう親子を見ていると、信頼関係が築けているなと思う部分と、忙しくて手がかけられていなくて、子どもが小学校に上がった時に、そのような雰囲気を感じることもあり、さらに磐田市 |

| | |
|---|---|
| | は多国籍なので愛着形成という言葉が上手く伝わっていないのではと感じています。<br>BP プログラムも非常に良い試みだと思いましたが、私は第２子を出産するタイミングで磐田市に来ましたが、BP プログラムは第１子が対象だったので受けられず、きちんとプログラムとして学べたらまた違ったのかなということもあります。第１子限定になっていますが、２人目、３人目で困っているお母さんたちは、そこで知り得ないのかなと感じました。 |
| 委員 | ・月一で子どもを集めて、自分たちで自主的に活動することがあり、母親が集まる場所となっています。地域でそういう場があるのは非常にありがたいと感じました。<br>また、私の姉はフルタイムで働いていて、迎えに行くことも難しいことが多く、帰ったら家のことをしなければならず、子どもと向き合う時間が取れなかったようです。<br>そのような中で、私は専業主婦なので、姉から一日家にいれるよねということも言われたことがあります。<br>そのような時、以前見かけた言葉がありました。１日に子どもは４回ハグをすれば最低限の生活ができる。８回ハグをすれば、それなりの成長をしていく。12 回ハグをすれば親の愛情を受け取ってのびのびと大きくなることができるという言葉で、そうなんだと思いましたが、それには続きがあり、旦那さんと奥さんがハグをすることにも色々な効果があるとの事でした。<br>それを見て、我が家でもやってみようということで、行ってらっしゃいの時に、主人と子ども二人とハグをするようにしています。子供も親が仲良くしているのを見て、自分も自分もと寄ってきます。子どもも親の姿を見て喜んでいる等、いい感じに流れてきたので、ハグなら１秒か２秒で終わることですが、そういったことで少しでも愛着につながるのではと感じていたりします。<br>今まで出ていないことで少し気になったのが、妊娠期間からの支援をして下さるということですが、私の友人も今妊娠中の方がいて、磐田市に出産を扱ってくれる病院がないと言っていました。というのも、今通っているところがいっぱいで入れないと言われてしまい、磐田病院にしようと思っていましたが、一時金として初めから 60 万円を払ってくれと言われたらし |

| | |
|---|---|
| | く、金額が高すぎて選べないということで、出産を袋井市でするということになりました。<br>ここが問題点なのかなと感じました。<br>また、不妊の助成はどこの自治体でもやっていただいていると思いますが、不育症の補助はあまりされておらず、３年前は数えるほどしかなく、これらの補助は非常にありがたいと思います。 |
| 委員 | ・スキンシップは非常に大事で、それを子どもに見せることはいい影響を与えられると思います。<br>病院について、どなたかお答えできるでしょうか。 |
| 事務局 | ・磐田市内で分娩を扱っている病院は、磐田病院ともう一か所民間がありますが。 |
| 委員 | ・友人は来年の５月に出産予定らしいのですが、既に埋まってしまっているので、紹介状を書くので他の所に行ってくださいねと言われたらしいです。<br>磐田病院では一時金 60 万円を用意してくださいと言われてしまったため、渋ってしまったようです。上のお子さんもいる中でお金がかかることもあり、金額は大きいのかなと思います。<br>袋井市では 42 万～50 万円程度ということで、磐田市内の病院と比べると少ないということでした。 |
| 事務局 | ・料金設定については把握していませんので、ご意見として伺い、また確認させていただきます。 |
| 委員 | ・私は単身赴任で磐田市に来ています。病気の子どもの話がありましたが、私の住んでいたところは「子育てのまち」と言われていますが、近隣市にはある病児保育の場所がないなど、本当にそうなのかと疑問を持ちました。<br>企業としては、働く女性のための環境をつくるため、育休を３歳まで、時短勤務は小学校１年生までなど、現場がたくさんありますので、実態を見ながらそうした対応をしています。また、工場内に 2001 年に企業内保育施設をつくりました。現場で働くお母さんは全体の８割くらいですが、やは |

| | |
|---|---|
| | りお子さんが病気のときなどは、休まざるを得ない場合がありますので、工場内の人員配置を工夫するなどの対応により、工場全体で女性の働きやすい職場環境を整備しています。 |
| | （２）その他報告 |
| 事務局 | ・子育て支援センターの配置見直しについて事務局より説明。<br>・病児保育事業実施の検討について事務局より説明。 |
| 委員 | ・うちの園の病後児保育では、自園以外からの定期的な利用者がいますし、年間の利用率は高いほうかなと思います。病児保育については、お子さんの病状が急変することなどがありますので、慎重に考えるべきだと思います。 |
| ４．事務連絡 | |
| 事務局 | ・次回第３回会議は、12 月ごろを予定しております。会長や委員の皆様のご予定を確認しながら決めていきたいと思います。 |
| 部長あいさつ | |
| ５．閉会 | |